

みなさんの温かい善意に感謝

～平成 24 年にいただいた寄付～

市では、平成 24 年の 1 年間、次のみなさんから寄付をいただきました。寄付金は、みなさんのご意向に沿ったかたちでまちづくりに活用していきます（順不同・敬称略）。

【寄付金】

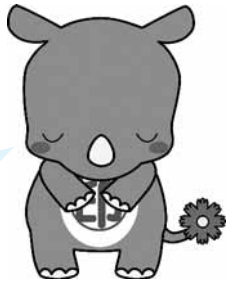
▶印西市歌謡連合会▶ウィリアム ルースベン セカンダリーカレッジ（オーストラリア）▶印西市舞踊連盟▶木刈フrendリープラザ 健康サークル愛（足もみで健康）。

【物品】

▶平成 23 年度大森保育園卒園対策委員会▶日本医科大学看護専

門学校▶平成 23 年度もとの幼稚園卒園児保護者一同▶（一財）藤本武弘育英会▶平成 23 年度西の原保育園卒園児保護者一同▶大森保育園父母の会▶宮橋泰昭（原山）▶尾形賢作（小倉台）▶平賀学童クラブ保護者会▶淡路泰世（木下東）▶栄治産業㈱▶岩井美知子（荒野）。

寄付をいただいたみなさん、本当にありがとうございました



▲意見交換をする自主防災組織代表者のみなさん

平成 24 年度 印西市自主防災組織リーダー研修会を実施
去る 2 月 3 日・本埜公民館で、地域防災の要となる自主防災組織の代表者を対象に、災害時における自主防災組織の重要性を再認識していただくための研修会を開催しました。

当日は、災害時にいち早く被災地に向くとともに、現地の救援コーディネーターとして、活躍されている「まちかど防災『滅災塾』」塾長の水島重光氏から「自然災害から被害軽減に向けて」と題した講義をいただきました。

また、災害救援ボランティア講座や教育訓練などの企画・運営をされている「災害救援ボランティア推進委員会」事務局の天寺純香氏指導のもと「災害時における避難所の運営」について、ゲーム体験をしながら、避難所の円滑な運営やリーダーとしての役割などを学びました。市では、今後も自主防災組織の活性化と地域防災力の向上に努めていきたいと考えています。 閏防災課防災班（☎内線 454）。

木下の上町観音堂で文化財防災訓練を実施



市では、貴重な文化財を火災などの災害から守るため、毎年 1 月 26 日の文化財防火デーに合わせて文化財防災訓練を実施しています。

本年度は、去る 1 月 20 日、木下地区に所在し、県指定有形文化財「銅造十一面観音立像」の安置されている上町観音堂を対象に、印西消防署や地元消防団、地域住民が協力して、通報訓練・初期消火訓練・放水訓練（写真参照）を行いました。

▲生涯学習課文化班（☎内線 546）。

印西市教育委員会児童・生徒表彰



大木教育長（中央）と受賞者のみなさん

「児童・生徒表彰」は、スポーツの大会および各種コンクールにおいて優秀な成績を収め、功績のあった児童および生徒を表彰するものです。 去る 2 月 6 日に教育委員会教育長から表彰状を児童・生徒に手渡しました。（順不同・敬称略）

男子走高跳第 1 位
▼竹村理恵（小倉台小 6 年）：同大会小学男子 4×100m リレー第 2 位
▼鈴木雄太（原小 3 年）：第 36 回千葉県課題図書小学校児童生徒読書感想文コンクール「日本国語教育学会千葉県支部長賞」
▼宮内明久佳（宗像小 4 年）：第 5 回学校給食・学校における食育に関する絵画「特別協賛企業賞」
▼五十嵐えり花（本埜第一小 4 年）：第 13 回キッズコロシウム大会（関東小学生陸上クラブ交流大会）女子 4 年走幅跳第 1 位

▼伊藤花奈子（木下小 6 年）：第 62 回「社会を明るくする運動」作文コンテスト「千葉県推進委員会委員長賞（県知事賞）」
▼坂川広樹（木刈小 6 年）：第 29 回千葉県小学生テニス選手権大会男子シングルス優勝
▼佐藤碩生（小倉台小 6 年）：第 7 回ちばキッズ陸上競技大会小学

【児童】

【生徒】

▼川下宜子（印西中 1 年）：第 35 回千葉県中学校新人体育大会柔道大会女子 40kg 級第 3 位
▼羽生拓矢（印西中 3 年）：第 43 回ジュニアオリンピック陸上競技大会男子 3000m 第 2 位
▼石田祐介（船穂中 1 年）：第 30 回明るい社会づくりポスターコンクール「特別賞（印西市社会福祉協議会会長賞）」
▼谷藤克樹（木刈中 2 年）：第 37 回千葉県中学校新人体育大会陸上競技大会男子共通 110m ハードル第 1 位
▼勝又彩花（木刈中 2 年）：同大会女子共通走幅跳第 1 位
▼梅津泉希（印幡中 2 年）：同大会女子共通走幅跳第 3 位
▼橋本なつ乃（西の原中 1 年）：第 8 回日本芸術文化環境書道展・毛筆の部「千葉県教育賞」
▼黒澤晴菜（西の原中 2 年）：平成 24 年度国土緑化運動ポスター原画コンクール「千葉県報社賞」

「明るい選挙書き初め」入賞者を決定

子どもたちに、政治・選挙への関心を持ってもらうため、毎年行っている「明るい選挙書き初め」（印西市選挙管理委員会・印西市明るい選挙推進協議会主催）の入賞者が決定。 各小・中学校から 1、432 点もの応募があり、審査の結果、金賞 9 点、銀賞 18 点、銅賞 27 点が選ばれました。金賞を受賞したみなさんは、次のとおりです（敬称略）。

【小学生の部】▼松田颯斗（滝野小 1 年）▼永井一心（木下小 2 年）▼三好ひかる（原山小 3 年）▼廣瀬心（木刈小 4 年）▼富澤華（永治小 5 年）▼伊藤歩美（小倉台小 6 年）
【中学生の部】▼林瑞希（船穂中 1 年）▼田中希（小林中 2 年）▼中神和也（小林中 3 年）



▲小学生の部（1,187 点）、中学生の部（245 点）それぞれ力作が寄せられました

印西市倫理法人会が会員 100 社達成

地域振興に大きな力

「印西市倫理法人会」は、市内の一般企業 100 社（平成 24 年 12 月時点）が参加する、(社)倫理研究所の法人会組織の一つです。

「実行によって直ちに正しさが証明できる純粋倫理を基底に、経営者の自己革新をはかり、心の経営を目指す人々のネットワークを拡げ、共尊共生の精神に則た健全な繁栄を実現し、地域社会の発展と美しい世界づくりに貢献する」ことを目的とし、「企業に倫理を、職場に心を、家庭に愛を」をスローガンに活動。企業のトップが倫理を学び、変わることで社員や社風を変えることを第一とし、健全な繁栄を目指しています。

平成 14 年 8 月の結成の同団体は、昨年 11 月に正法人会に昇格しました。主な活動は、毎週行われる早朝の「モーニングセミナー」の開催です。同セミナーでは、会員のみなさんが、それぞれの経験や理念を答弁し、企業



毎朝 6 時から行われるモーニングセミナー

経営者としての在り方を考えています。

今回の 100 社達成を迎え、会長の大野忠寄氏は「身近なところでは市内で開催される祭り・イベントへの参加や協賛、市内の駅前の掃除、学校周辺でのあいさつ運動を。グローバルな活動では、内戦が続く国の地雷撤去、子供兵の復帰支援、平和問題を伝える NPO 法人テラ・ルネッサンスの講演会活動のサポートを予定しています。『入会して良かった』と思われるような、県内で一番の優良法人会を目指します」と意気込みを語りました。 倫理法人会下総地区（☎ 047-334-2194）。

シリーズ・心の道標④（最終回）

バンク・ミケルセンのノーマライゼーション(normalization)

▲社会福祉課障害福祉班（☎内線 268）

今から 60 年以上前にデンマークのバンク・ミケルセン氏が参加していた「知的障がい者の家族会の施設改善運動」から生まれた福祉理念が、ノーマライゼーションです。

ミケルセン氏は「社会から隔離された知的障がい者施設を視察して、隔離施設では障がい者の尊厳や人権を守ることが難しい」と結論づけ、健常者と障がい者が地域社会の中で共に生活する状態こそがノーマル（普通）だと訴えました。

「ノーマライゼーション」は、障がいのある人たちに、障がいのない人たちと同じ生活条件をつくり出すことや、障がいがある人を障がいのない人と同じノーマルにすることではなく、人々が普通に生活している条件が障がい者に対しノーマルであるようにすること、自分が障がい者になった時にしたいことをすること、といったことがあげられます。

障がいがあっても、移動しやすく負担が少ないバリアフリーの設計や、さらに障がいの有無に関わらずに、誰もが簡単に使いこなせるデザイン・構造を考えて実現化するというユニバーサル・デザインの発想もすすめられています。

日本でも 1993 年（平成 5 年）、ノーマライゼーションの思想に基づいて「障害者基本法」が制定され、施設から地域社会での共生への転換が目指されています。また 2000 年（平成 12 年）には成年後見制度が施行されました。これは、精神上の障がい（認知症、知的障がい、精神障がいなど）により判断能力の不十分な成年者の生活、療養、看護や財産の管理に関する事務を、本人とともに成年後見人などが行うことによって、ご本人を保護する制度です。今後は障がいのある人を社会から排除せずに、自然に共に助け合って生きていけるような福祉制度の整備と運用が求められています。

著・成田地域生活支援センター 尾内保之氏（精神保健福祉士）。

このコラムは今回をもちまして終了となります。長い間、ご愛読いただきましたみなさんに、心より感謝申し上げます。